

自分を信じ 仲間を信じ、さあ

ご卒業を心よりお祝い申し上げます。皆さんは、これから大学で養われた学力、体力を存分に発揮出来る社会に巣立られます。一昨年の金融危機により世界は同時不況に陥り、まだまだ出口が見えてきません。それに伴い日本経済も、多大な影響を受け、その波はデフレとなり今なお続いています。また



出会い、会話を大切に

後援会会長 永山 正一

企業の採用控えによる就職率の低下で、皆さんには非常に厳しい時代になりました。そんな中、平成遷都1300年祭が開催される記念の年に卒業される皆さんに一つ、頭の片隅に残していただければと思う事があります。最近ではデジタル化が進み、インターネットやメールを駆使し、スピードが求められる情報化社会です。一方で、人と人の語り

の素晴らしい心の財産になると信じます。そのためにも多くの人とのお会いを大切に、輝かしい未来へ果立って下さい。最後に、卒業生の皆様、ご家族様のご健康とご多幸を祈念し、これからの社会人としてのご活躍を期待申し上げます。

ご卒業おめでとうございます。昨今、暗くて不安な情報が飛び交う世情ではありますが、皆さんの未来が輝かしいものであることを祈念いたします。奈良大学での学生生活はいかがでしたか？



貴重な時間忘れずに

校友会会長 古川 稔

入学時と比べて随分とたくましくなられたことでしょうか。皆さんにとって「奈良大学」が貴重な時間と体験を過ごさせてくれた学舎であった事を忘れないでください。そしてそれは、かけがえない財産だと思います。

皆さん、どうぞ心の扉を大きく開き、今日からそれぞれの目標に向けて新たな一歩を力強く踏み出してください。そしてその目標に一年でも、一日でも、一歩だけでも早くたどり着かれますことを祈念して、「おめでとう」の言葉を贈らせていただきます。

ご卒業おめでとうございます。一昨年に米国で起こったリーマンショックに端を発する世界同時不況が、国内経済にも悪影響を及ぼし、皆さんの就職活動においては大変辛く厳しいものであったと思います。



「自信と誇り」を持って

就職部長 田嶋 賢治

そのような中、皆さんは今「学生」というステージから「社会人」という新たなステージに旅立られます。そこは、今までのような「甘え」や「逃げ」が通用しない社会です。いろいろな試練や出会いも皆さんを待

て挑戦してください。必ず道は開けます。最後に、卒業生の皆さんの今後ますますのご活躍を期待いたします。

合いが減り、人を思いやる心もまた希薄になっているように思います。そこで、皆さんは社会に出られたら、同僚や上司の方と出来る限り直接の会話を心がけ、相手の思いをくみ取るようにしていただきたいと思えます。自分の思いを伝える事が出来た時は、皆さんにとって、将来へ



辛さも仲間と乗り越えた

文学部国文学科 高田 大樹



「押忍！失礼します！」
大学生活の日常にあったこの言葉を使わなくなり、体育会本部役員の仕事からの解放と同時に、もう卒業なのだという寂しさを感じました。
奈良大学に入学し、学業を始めさまざまな事を学びましたが、何よりも仲間と過ごしてきた時間は、私にとってかけがえない財産となりました。硬式庭球部に所属し、部の役員として約3年間本部役員も務めました。この仲間たちとさまざまな時を過ごしましたが、辛い経験を共に乗り越えてきたからこそ、今では心から笑い合える友となったと思っております。この仲間たちと出会えて、本当に奈良大学に入学してよかったと思っております。



奈良で学べた「贅沢」

文学部地理学科 伊藤 和栄

私はこの4年間で人間性が変わったと実感している。
経験論になるが、その節目には必ず人との出会いがあり、この4年間は22年のなかでもひとと関わりの濃いものだ。送り出してくれた両親、気の合う地理学科の友人、ヤンヤ・サークルのみんな、奈良大学の教職員の方々、苦楽を共にしたフテニス部の後輩たち、「戦友」とも言うべき同級生、厳しくも優しくしてくれた先輩たち、「先死んだ奴を笑いに葬式行く」約束を結んだB型2人。もちろんぶつかりましたし、しこりの無い4年間とは決して言えない。しかし、人生はきつとその連続なのだと思ふ。人と出会うほどの複雑さに悩み、涙を流し、うつむいてしまう。だけど大事なものは、止まらないこと、懸命に前を向いて努力を惜しまないこと。その行為が、いざれ台風のように周りを巻き込み、自分を形作る。だから、無駄な出会いはなく、すべての出会いに「感謝」の一言しかない。私にとって、奈良で学べた最高の「贅沢」である。
また逢う。笑って!!それまでみんな達者!!



自分で考え、成長できた

文学部史学科 山下 みな美

大学生活を振り返ってみるとたくさんの方が思い出されます。サークル活動や、講義、ゼミの発表、就職活動、卒業論文、友達と集まって騒いだことなど、今ではすべてが懐かしく感じられ、入学式がつい最近のことのようです。入学当初は、地元を離れ、うまくやっていけるかとても不安でしたが、良い人たちに

会えて本当に良かったと思います。特にサークルでは、良い先輩、後輩に恵まれ、楽しい時間を過ごすことが出来ました。ゼミでは、年に何回かゼミコンパを開いており、同級生だけではなく先輩・後輩とも親睦を深めることが出来、卒業論文提出後には先生も含め伊勢旅行にも行くことが出来ました。
私の大学生活は、「人との出会い」が大部分を占めていたと思えます。たくさんの人と出会い、話さずして、自分とは違う考えに触れ、また自分で考えることで、少しは自分自身で成長出来たのではないかと思います。最後に、大学生活を応援してくれた両親に感謝したいと思います。



「子どもが好き」を知った

社会学部人間関係学科 岡本 真依

4年前、本当は他の大学に行きたかったという気持ちも抱えながら入学した奈良大学。ここで私は、本当に多くの体験をさせてもらいました。
入学当初は資格さえ取れば良い、という漠然とした目標しか持っていなかった。しかし、とある講義で「今、自分出来ることをすることが大切」という言葉を聞き、私は学外で子どもとかかわるボランティアを始めることにしました。そこで、子どもと接することが大好きであることを強く感じました。

もつと子どもたちとかかわりたいという思いから、本学の地域連携教育研究センターの事業の一つ「歩いて発見隊」に参加することを決めました。特に、思い出に残っている活動は、歩いて発見隊主催での初めての企画「エコキョーホルダーをつくらう」です。
一からの準備はとて大変でしたが、自発的に動くという経験をする事が出



て挑戦してください。必ず道は開けます。最後に、卒業生の皆さんの今後ますますのご活躍を期待いたします。

